

Monthly Report

Vol.173 / 2020.SEP
(月1回発行)

「仙台大学 あすと長町サテライト・オフィス」を開設しました



記者会見後に記念写真

本学はゼビオアリーナ仙台と連携し、仙台市あすと長町地区の「ゼビオアリーナ仙台」の一角に「Sports Labo@XEBIO ARENA 仙台大学あすと長町サテライト・オフィス」を開設しました。

9月2日（水）開設にあたりメディア向けに記者会見を実施し、朴澤泰治理事長は「ウイズコロナ、ポストコロナといわれる中、身体活動に関しても新たな考え方、取り組み方が求められます。そうした観点からも新しい試みを地域のみなさんと一緒に行っていきたい」と展望を話し、ゼビオアリーナ仙台的小池励起館長は「スポーツの発信活動拠点を目指し、今回『スポーツ』という切り口でシェアオフィスに現在5団体入居して頂いていますが、体育大学である仙台大学に入居して頂いたことで産学間でも非常に楽しみです。」と期待を寄せました。

会見後は、本学が招聘している白石市・柴田町東京2020オリ・パラホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんと子ども運動教育学科の学生によるリズムダンス、サーキットプログラムのパフォーマンスを披露しました。

今後は地域の方々、更には仙台市民、宮城県民の皆さまに、本学のスポーツ健康科学の知見を活用して、①乳幼児と保護者の運動遊び教室、②各種スポーツに関するイベントやセミナー等、③近隣の小中高生のスポーツ少年少女及び指導者へのワンポイント・アドバイスの実施、など楽しく各種のスポーツに触れていただく、社会貢献活動拠点の一つとして活用していきます。



リズムダンスのパフォーマンスを披露する子ども運動教育学科の学生とセベツ・アリーナさん

〈目次〉

・「仙台大学 あすと長町サテライト・オフィス」を開設しました	1
・教員初体験の私ですが・・・	2
・海外で活躍する卒業生・イスラエル女子柔道コーチの田中美衣さん～ 恩師：南條和恵監督の言葉を胸に ～	3
・硬式テニス部：東北学生夏季テニストーナメント大会の結果 ・男女バレーボール部：樫の木杯開催 ・男子バスケットボール部員が、ボランティア清掃活動をアシスト／感謝の電話	4
・同窓会・同窓会有志の会より寄贈／クオカードを配布しました ・気持ちよく笑顔で運動／本学と柴田町の生活習慣病予防教室 /月1回ペース ・スポーツ情報マスメディア学科生、釜石シーウェイブスでインターンシップ	5
・芝草通信 NO. 17	6
・硬式野球部／仙台六大学野球 秋季リーグ開幕／2連勝 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 29	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

毎月、新任の先生方をご紹介するコーナー、今回はスポーツ情報マスメディア学科の佐藤修教授にご寄稿いただきました。佐藤修教授は本年3月まで東北放送（株） *TBS系列* で、スポーツ部長として番組制作のプロデューサーを務めた傍らスポーツアナウンサーとしても活躍されました。

教員初体験の私ですが・・・

仙台大学 教授 佐藤 修

ジャイアンツの原辰徳監督が9月11日、監督通算1067勝目を挙げ巨人軍の歴代最多となった。栄光の巨人軍というほどだから原監督が史上最多かと思いきや上にはまだ10人もいて、元南海監督の鶴岡一人氏が1773勝でトップ、ノムさんや星野監督もその名を刻んでいた。星野仙一氏は1182勝で歴代10位。正直そんな上位にランクしているとは想像していなかった。それは殆どの監督の退任のタイミングが成績不振とリンクしているかもしれない。打つ手打つ手が外れて負けを重ねて下位に低迷し、就任会見時とは別人のような表情で去ってゆく。

2014年8月23日、楽天は首位と24ゲームも差をつけられ優勝は絶望、前年日本一の面影すら消えてしまっていた。その頃、腰の手術で7月下旬まで2か月間休養していた星野監督の去就が取りざたされていた。試合前、中継のための取材で私は他社の記者とともにベンチの中で星野監督の雑談に耳を傾けていた。一瞬記者との会話が途切れ私は星野監督と目が合った。監督は「ベンチの裏へ来い」というように顎で合図を送ってきた。監督が楽天に来てから4年間で初めての事だった。他社は誰も来ない。対一。裏の衝立の影に身を隠しながら「どうなんですか？」と去就について質問をぶつけた。「いろいろ、足をひっぱるやつがいてなあ」と苦渋の表情を見せた。それからいくつかヒントになる言葉ももらい話は終わった。監督は再び記者の囲みの中へ。私はこの日はもう、監督のそばへは行かなかった。心臓がドキドキしていた。闘将星野監督が私に向かって心情を吐露した。ついに監督の中に入り込めた。

スポーツの取材現場では日々新しい情報に触れる。取材対象はプロのアスリート。自分に不利益な情報は決して漏らさない。そこを敵に攻められるから。弱音も決して吐かない。生活にかかわるから。しかし好調を支える裏には多くの苦悩が潜んでいる。取材行為はその陰に潜む本当の姿をいかにつかむか、他社との競争であり取材対象との信頼関係構築の努力でもある。

この半年間、スポーツ報道や中継の歴史、ネットの台頭によるこれからのテレビの立ち位置を調べ学生に伝えてきた。放送局で働いていながら実はそのような歴史や課題についてぼんやりとは感じていたが、文字として意識したことはなかった。学生とともに自分自身も学びの日々である。できれば心臓の動悸が伝わってくるような緊張のエピソードを伝えたい。しかし準備したことを伝えるに精一杯で、経験談をうまく組み込めない。というより披露する勇気が湧いてこない。自分の話がどこまで伝わっていたのだろうか。講義を終えGoogle Meetのスイッチを切るたびに安堵と不安が交錯する。試行錯誤が当分続きそうだ。



「ベガルタ仙台戦を取材中の佐藤修」
～2005年 ユアテックスタジアム仙台にて～



楽天生命パークで仙台大生に野球中継の制作体制を説明する筆者（2017年）

たなか みき

海外で活躍する卒業生・イスラエル女子柔道コーチの田中美衣さん ～ 恩師：南條和恵監督の言葉を胸に ～



2019年グランプリ・マラケシュで選手が銅メダルを獲得
(田中コーチは左から2番目)



2019年、田中コーチの誕生日に選手たちがケーキを作
りお祝いしてくれた時の様子

本学OGである田中美衣（たなかみき：平成21年度体育学科卒業）さんは滋賀県出身、8歳から柔道をはじめ、本学へ進学。2010年には東京世界選手権で女子63キロ級銀メダルを獲得するなど、トップ選手として名をはせてきました。本学卒業後、了徳寺学園の職員になりましたが、柔道の普及のため2017年にイスラエルへ渡り、柔道女子コーチに就任。世界的なコロナ禍で1年延期となった東京五輪に向けて、イスラエルの選手たちを励ます様子が過日、中日新聞に掲載されました。

それを目にされた朴澤泰治理事長より「田中さんがイスラエルの女子柔道コーチとして、新型コロナウイルスの世界での感染のなかでも来年に延期されたオリンピック開催を信じ、選手たちを励まし指導に励む様子を拝見し、かつて嘉納治五郎先生が世界に柔道を広められた崇高な精神を思い起こしました。仙台大学で学んだスポーツを科学するアカデミックな知識と平和に貢献する柔道の魂を胸に、今後ともご尽力ください。来年、東京オリンピックの晴れ舞台である武道館にて田中さんにお目にかかれることを楽しみにしております。」と、励ましの言葉を送ったところ「理事長先生、このたびは、激励メッセージありがとうございます。現在イスラエルの柔道は、ほぼ通常練習に戻り、来月は国内大会を開催する予定です。しかし、国内の感染者数は多く、常にコロナウイルスの予防を選手に徹底し、なんとか感染者を出さず通常練習をおこなっている状態です。国際大会の再開また、オリンピックが開催されるのかといった不安から、チームのモチベーション維持は正直難しいですが、大学時代、南條和恵先生に言われた『サプライズに強くなれ』と言葉を思い出し、突然の出来事にも目標を見失わず、ブレない精神で精進しております。誰もが未経験のことで、練習も遠征再開も手探りですが、仙台大学で学んだ知識と精神で、来年の東京オリンピックに向け選手のサポートをやり切りたいと思います。日本へ帰国時、仙台大学に原点回帰に伺います。ご多忙の中、わざわざ激励のメッセージをいただき誠にありがとうございました。」と返信がありました。

田中さんがイスラエルに行くきっかけは4年前、柔道選手を引退後、教員志望で次の進路を考えている際、海外での指導方法を学んでから教員採用試験を受けても遅くないのでは？と考えたことだそうです。海外で指導できるチームがないか？と思っていた矢先、ちょうどリオデジャネイロ・オリンピックが終わり、日本人指導者を探していたイスラエルチームと巡りあったとのことでした。

現在、田中さんは基本的にシニアチーム20人ほどの選手を指導しており、日本人選手とイスラエル選手の違いについて「イスラエル選手は日本人以上にウエイトにかかる時間が長くパワーがあります。ただ、技術面での細やかな動作はやはり日本人の方が上手で隙がなく、安定しています。技に飛び込む勢いやパワーはイスラエル選手がまさっているため、ハマれば強いというのが大きな違いだと思います」と語りました。また、指導で気を付けている点は「反復練習と細かなポイントを飛ばさずに順序通りやることで、いろいろな場面で応用が効くため、パワーと勢いだけでは通用しないことを意識し、選手に伝えるようにしています。」と述べました。

イスラエルの母国語はヘブライ語ですが、田中さんは英語で指導していて、今では日常生活に不自由しない程度、英語が身に付いたそうです。現在の目標は「打倒日本人！」、今後は若い選手を指導し、イスラエルのオリンピック代表選手を育てたいと笑顔で話されました。

そのような愛弟子の努力に対し、恩師である南條和恵監督は「田中は学生時代も、強いものに向かうときほど力を発揮する選手でした。『打倒日本人！』と語るころは、負けず嫌いの美衣をよく表していますし、日本への恩返しの意味もあるのではないのでしょうか。また、日本人として初めてイスラエル柔道に飛び込んでいき、そこでもしっかりと地に足をつけている姿を見て、まだ実績のなかった仙台大学に自ら飛び込み日本一を達成した彼女らしいなと誇らしく思います。今後は、海外での実績を生かして、仙台大学と一緒に後進の指導ができれば、という夢も持っています。」と、語っています。

仙台大学で培った柔道家としての魂を胸に、田中さんが海を越えチャレンジし続ける姿がこれからも後輩たちに受け継がれていくことでしょう。

硬式テニス部：東北学生夏季テニストーナメント大会の結果

開催場所：仙台市泉総合運動場・川内庭球場

【男子シングルス】

第3位 大久一真（体育学科 4年） ※

第5位 田中翔馬（体育学科 3年） ※

【男子ダブルス】

第3位 田中翔馬（体育学科 3年）・村上智哉（体育学科 3年） ※

【女子シングルス】

第6位 本田楓果（こども運動教育学科 3年） ※

【女子ダブルス】

第3位 菌部 優姫（運動栄養学科 3年）・菌部 舞姫（体育学科 3年）



※印の選手は、11月に開催予定の全日本学生テニス選手権（四日市）の出場権を獲得しました。

今大会はコロナの影響により、無観客試合で行われましたが、OB・OGを初め、様々な方からメッセージ等、沢山の声援をいただきました。心よりお礼申し上げます。

<報告：硬式テニス部>

男女バレーボール部：縦の木杯開催

8月29日（土）、30日（日）に第39回仙台大学縦の木会長杯争奪高等学校女子バレーボール大会および第2回仙台大学縦の木会長杯争奪高等学校男子バレーボール大会を開催し、県内外から女子10校、男子4校の計14校が熱戦を繰り広げました。

今大会は、本学の「仙台大学の専門教養演習（バレーボール）」の授業の一環として大会を運営し、今年は新型コロナウイルス感染予防対策（大会開催ガイドラインの作成、来学者全員の2週間の健康チェックや当日の検温、試合前後の使用備品等の消毒、等々）を十分に行い、OB・OGの先生方からなる縦の木会にご協力いただきながら開催することができました。

縦の木会の先生方からのご指導や、高校生のプレーから新たに得るものも多く、本学生にとって学びの深い2日間となりました。特に、感染予防対策を行いながらの大会開催・運営は、体育大学生としてこのような状況下でも身体活動を行うことができる自信と経験を積むことができました。

今後も、大学生と高校生が交流し、困難な中でも協力を得ながら大会を開催、参加する機会が増えていければ良いと考えています。

<報告：男女バレーボール部>



男子バスケットボール部員が、ボランティア清掃活動をアシスト／感謝の電話

8月29日（土）、深沼海水浴場でボランティア清掃活動をしていた方々が100kg以上もあるゴミの取扱いに難儀していたところ、トレーニング中の男子バスケットボール部員5名（相澤 正輝さん（体育2年）、高橋 琉唯さん（体育2年）、高野 英治さん（体育2年）、中島 尚廉さん（体育1年）、鈴木 雄音さん（体育1年））が爽やかに一致団結し、清掃活動をお手伝いしました。その行為に対し、清掃活動をしていた方から、後日、お礼の電話をいただきました。

本件については、学内でも話題となり、9月10日（木）に、遠藤保雄学長からお誉めの言葉が掛けられました。

<報告：学生生活室>



同窓会・同窓会有志の会より寄贈／クオカードを配布しました

本学の同窓会・同窓会有志の会より学生生活支援として寄贈いただいた全学生分のクオカードを、本学は9月11（金）、12（土）の両日、学生たちに配りました。

両日は健康診断のため全学生が来校。本学職員が一人一人にクオカード（2000円相当）を渡しました。「先輩たちからだよ」と告げられると、学生たちは「助かります」「ありがとうございます」などと喜んでいました。

硬式野球部主将の佐野如一さん（体育4年）は笑顔で感謝。「とてもうれしい。9月19日には仙台六大学野球秋季リーグ戦が始まるので、試合前の補食用のゼリー飲料を購入します」と話していました。そのほか「食費に使います」「参考書を買う」といった声も届きました。

今回の学生生活支援事業については、同窓会からも改めて応援メッセージが寄せられました。「本日は同窓生有志の会・同窓生の皆さんと学生の皆さんがつながった記念すべき日です。諸先輩方の熱い思いをしっかりと受け止めて、学生の皆さんは有効に活用いただくよう願っています。同窓会はいつでも皆さんを応援しています」（12回生・同窓会事務局職員、佐藤一広さん）

本学は7月、同窓会などよりクオカードのほかにオンライン環境整備事業支援として1000万円などを受け取っています。



気持ちよく笑顔で運動／本学と柴田町の 生活習慣病予防教室 /月1回ペース

健康な体づくりの支援を目的に本学と柴田町は月1回ペースで「生活習慣病予防教室」を開催し、食生活の改善や運動の習慣化などを呼び掛けています。

教室は7月に始まりました。本学教員が「生活習慣病予防のコツ」「正しいウォーキングの方法」「栄養、食事の方法」について専門的見地から指導しております。運動面では大腿四頭筋、下腿三頭筋などの下肢の筋力トレーニングを中心に一緒に楽しみながら行っています。

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、体を近づけて指導できないところがつらいものの、工夫を凝らしながら、参加者の皆さんが少しでも気持ちよく、笑顔で運動できるようにサポートしています。

<スポーツ健康科学研究実践機構 健康づくり支援班>



スポーツ情報マスメディア学科生、釜石シーウェイブスでインターンシップ

スポーツ情報マスメディア学科2年生の吉田陵馬さんが、ラグビーの釜石シーウェイブスで映像分析スタッフとしてインターンシップ（8月17～29日）を体験してきました。

分析ソフト「スポーツコード」を用いたプレー分析、勝敗を分けたポイントの考察、そして練習、試合風景の撮影など多岐にわたる内容です。吉田さんは「分析活動も生のラグビーを見ることも初めてでしたが、三浦アドバイザーをはじめ、コーチングスタッフや選手の皆さんに一つ一つ親切丁寧に教えてもらい、とても有意義な時間を過ごせました。また、震災のお話や復興に向けた取り組みなど、釜石でしか体験できないインターンシップになりました」と充実感いっぱい話してくれました。

スポーツ情報マスメディア学科はさまざまな競技のトップチームでのインターンシップを実施しています。現場でしか味わえない体験を通し学びの場を提供していく計画です。

※スポーツコードとは

ビデオ映像を最大限に活用して勝利へ導くためのツール。NBAやサッカープレミアリーグのほとんどのチームで活用されている世界標準のゲーム分析ツール。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>



スポーツコード分析画面



分析方法の指導を受ける



実習中の様子

10月の芝生管理（暖地型芝生と寒地型芝生）について

芝生の生育スピードは急に鈍くなります。

***自宅などの芝生の参考にもしてください。**

1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理（暖地型日本芝生）

- ① 刈り込み：シーズン最後の刈込を、刈り留めといいます。10月中旬に1回刈り込めば、今年はもう刈込む必要はありません。刈り留め後も少し伸びますが葉や茎を長めにしておいたほうが、冬の間の擦り切れなどによる傷みが少なくなります。
- ② 水やり：与えません。
- ③ 肥料：施しません。
- ④ 病害虫の防除：直径30cmほどの白いパッチが現れることがあります。疑似葉腐れ病という病気で像の足跡病とも呼ばれています。栄養不足の芝生に発生することが多い病気ですが、茎まで枯れてしまうことはありません。発生初期であれば、ダコニール（TPN剤）が有効です。
- ⑤ 草取り：冬雑草あるいは春雑草と呼ばれるものは、10～11月に発芽します。スズメノカタビラ、アレチノギク、タンポポ、ミミナグサ、ハコベなどです。こまめに抜き取りましょう。除草剤を用いる場合は土壌処理剤が適しています。除草剤には茎葉処理剤と土壌処理剤と呼ばれるものがあります、土壌処理剤と呼ばれるものは生えた雑草を枯らすものではなく、発芽そのものを抑える作用をもっているものです。芝生の場合、9月下旬～10月上旬に処理すると高い効果を現します。使用にあたっては説明書をよく読んで間違いのないように注意しましょう。

2 A. 第二グラウンド天然芝生ラグー場・アメリカンフットボール場の維持管理（寒地型洋芝＋暖地型洋芝）

8月～9月にかけて晴天（夏日）が続いたことにより暖地型洋芝バミューダグラスは順調に育ちました。寒地型洋芝は衰退しほぼバミューダグラスが覆いつくしました。成長して、寒地型西洋芝が密集して裸地化した部分にも入り込み裸地がほとんどなくなりました。

- ① 刈り込み：バミューダグラスの成長が旺盛なので、9月同様に刈り込みの翌日または3日目に刈り込みを行います。
- ② 水やり：寒地型洋芝の生育を観察しながら乾燥に注意を払います。乾燥が続くときは毎日～2日おきに、午前中に散水が必要になります。
- ③ 肥料：化成肥料（N-P-K＝10-10-10）を1㎡当たり30g施します。
- ④ 病害虫の防除：発芽後の西洋芝が密集状態で、寒地型西洋芝は秋の長雨の後の高温気象の時にピシウム病が発生しやすいので警戒をします。早朝の観察が必要となります。葉先の朝露のもち方が多い時には、早朝に竿などで露を払ってやると、病害の発生が少なく丈夫な芝になります。

参考文献：NHK趣味の園芸

2 B. 第二グラウンド、噴水周り散水要領について紹介！

5月から10月にかけて晴天の日がづつき、乾燥状態が続くと寒地型洋芝、暖地型洋芝及び暖地型日本芝は生育に影響を及ぼします。そこで散水設備が必要になってきますが、仙台大学には、スプリンクラー設備がないため、第2グラウンドラグビー・アメリカンフットボール場はスマイレインのホース（長さ約90mにわたり、左右両側に30度、45度、60度方向に散水できる様に50cm間隔を空けて小さい穴が開いている）を使い散水しています。大学噴水周りも水道からホースを使い先端に小型スプリンクラーを取り付けて散水しています。（以下写真参照）



写真 1. 第二グラウンド天然芝生
スマイレインによる散水状況



写真 2. 大学噴水周り
ホース散水状況

(9月25日記)

硬式野球部／仙台六大学野球 秋季リーグ開幕／2連勝

9月19日（土）、仙台六大学野球 秋季リーグ戦が仙台市・東北福祉大学野球場で開幕しました。

今季は新型コロナウイルス感染症の影響から例年より遅れての開催となり、各大学2戦総当たりの勝率制で優勝を争います。

本学硬式野球部は19、20日（日）の両日、東北大学と対戦し1回戦13-1、2回戦11-0でいずれも大勝、連勝スタートとしました。



1戦目：初回に先制となる佐野如一主将の3点本塁打で「肘タッチ」

◇1回戦 対 東北大学（13-1）○ 5回コールド
 仙台大 5 1 3 3 1 = 13
 東北大 0 1 0 0 0 = 1

プロ注目右腕の宇田川（体育4年）が7奪三振、1失点で完投。打線は初回に3番佐野（体育4年）、4番川村（体育3年）の2者連続本塁打などを含む13安打13得点で5回コールド勝ちとしました。

◇2回戦 対 東北大学（11-0）○ 5回コールド
 東北大 0 0 0 0 0 = 0
 仙台大 5 0 0 0 6 = 11

先発した長久保（体育2年）が被安打2、6奪三振とリズムの良い投球で5回零封。打線はリードオフマンの1番稲山（体育3年）が3打数3安打と打線に火を付け、12安打、11得点でコールド勝ちとしました。

応援誠にありがとうございました。
 <報告：硬式野球部>



宇田川優希投手（体育4年）



長久保滉成投手（体育2年）



稲山裕一外野手（体育3年）



「高校スポーツの安全を守る」Vol.29

担当：今野 桜 助手

先日、仙台大学附属明成高校女子サッカー部が出場した高校サッカー選手権大会に試合帯同してきました。今年度は高校総体が中止となったため、女子サッカー部にとっては今年初の大会でした。3年生にとっては今年最初で勝ち残らなければ最後の公式戦。1年生にとっては高校生になり初めての大会という事もあり、いつもとは少し違った緊張感で試合に臨んでいました。私も着任1年目で試合帯同は今回が初めてでした。普段の練習や練習試合とは違った、少しピリッとした雰囲気でも緊張しながらベンチで試合を見守りました。結果は第3位で、大きな怪我や事故なく無事に大会を終えることができました。最後まで諦めずに多くの困難を乗り越えてきた3年生には、これからも進学先でサッカーを続ける人、競技を引退してサッカーとは別の道に進む人、と進路はバラバラですが一人一人が高校の部活動で学んだ事を活かし、将来それぞれのフィールドで活躍できる人になってほしいと思います。ATとしての反省点は、怪我によって今回の大会に出場できなかった、又は持っている力を十分に発揮できなかった選手が多数いたことです。防げる怪我をできるだけ減らし、選手たちが公式戦にベストなコンディションで臨めるように、日頃からコンディショニングの重要性を教育していく必要があります。これからは他の部活動も公式戦の予定があります。3年生にとっては最後になるかもしれない大会や、1、2年生が中心になって初めての大会など、どれも気を抜けない大事な戦いです。選手たちがこれまでの練習の成果を十分に発揮し、より良い結果を残せるように川平ATRでサポートしていきたいと思ひます。